

〔専門医による講話〕

- 1 テーマ 依存症について
- 2 対象 3年、教職員
- 3 専門医 成重 竜一郎
(若宮病院)
- 4 実施月 7月
- 5 内容(キーワード)
薬物依存、ネットゲーム障害
ソーシャルメディア依存



評価(あてはまるものに○をつけ、理由を記入)

①健康課題の解決について

- 有効だった
 有効でなかった

<その理由>

*薬物の中には、市販薬も含まれていることや、より刺激の強い物を欲することの危険性を学んだ。また、ネットゲームの対戦型はパターン化しないために飽きることなく、SNS は承認欲求に応えてくれるために女子が依存しやすいことを知ることができた。

②校内の組織づくりについて

- 有効だった
 有効でなかった

<その理由>

*講演会を通して、講師選定から、養護教諭や校医の先生と相談することによって、学年団の課題を共有することができた。学年団で役割を分担し、実施することができ、今後の学年・学級指導の方向性を共有することができた。

③校外の関係機関等との連携について(派遣専門医を含む)

- 有効だった
 有効でなかった

<その理由>

*打合せなどで、学校現場の困り感などを相談することができた。思春期の生徒が考えられる具体的なケース理論と対処のアドバイスをしていただいた。

〔受講者の感想など〕

- 薬物やネットゲームや SNS 依存は、楽しさを求めるものではなく、ストレスや悩みによって引き起こされるものだと知ることができた。依存症には、記憶力や集中力の低下などの後遺症や、フラッシュバックや妄想が出現することを知った。



〔教科やその他の指導との関連性〕

- 夏休み前の講演だったために、夏休みの生活リズムの計画づくりやメディア使用時間の目安を立てるのに効果的だった。また、現実世界の人間関係の構築の重要性、ネット世界でのコミュニケーションの危険性など知る機会となった。